



岩出山地域づくり委員会役員
渋谷 英美 さん



岩出山地域づくり委員会副会長
白鳥 歩 さん

岩出山の魅力と 見えてきた地域の課題

渋谷 岩出山の城下町の風情や歩いて回れるまちのスケール感などに魅力を感じ移住しましたが、地域に入り活動する中で見えてきた課題が「動いている人をつなぐこと」でした。

白鳥 岩出山にはイベントや取り組みと一緒に楽しんでくれる人がたくさんいます。多彩な人材と地域の資源が大きな魅力の岩出山で、もっとできることがあるのではないかと「思う」ことが増えていきました。

イワデヤマンズリー誕生 ― 一点から面へ ―

渋谷 岩出山では毎年10・11月にイベントが集中します。しかし、目

作しました。
白鳥 チラシの配布後、地域住民から「イワデヤマンズリー、すごいね」「すてきだね」という言葉がたくさん寄せられました。担い手の似顔絵や岩出山ならではのイラストのデザインを身近に感じ、喜んでもらえたようです。チラシの効果は絶大でした。
「イワデヤマンズリー」をきっかけに、今まで以上に地域の人と顔を合わせて関わる機会が増えたことも大きな収穫でした。

生まれた変化

白鳥 「イワデヤマンズリー」がモデルとなって、主催者同士のつながりが生まれています。実は春に向けて、すでに計画中の取り組みもあるんです。

令和7年秋、岩出山地域の盛り上げに一役買った「イワデヤマンズリー」を知っていますか。市の交付金を活用して地域活性化を図った岩出山地域づくり委員会の白鳥歩さんと渋谷英美さんに取り組みやまちへの思いについて話を聞きました。

当てるイベントに来たら、まちを回遊することなく帰ってしまう人が大半でした。少し歩けば別の楽しみもあるのにもったいないと感じていました。

そこで、点にしている秋のイベント情報を一つの媒体にまとめて岩出山を面で見せられたら、「同じ日にこんなイベントもある」と気付いてもらえ、まちを巡ってもらえるのではないかと考えたのが、「イワデヤマンズリー」の企画の発点でした。委員会は民間・行政のどちらの情報も集まりやすい団体なので、情報の取りまとめ役として適任だと考えました。

委員会の役員や各イベントの主催者からの賛同も得て準備を進め、チャレンジ事業交付金を活用し、チラシを作成して全戸配布したほか、ウェブサイトや動画も制

渋谷 今まで単独でイベントを開催していた地域の人たちの間で、他のイベントと連動しようという動きが見え始めたことは、「動いている人をつなぐ」本来の役割を、委員会が担えたようでうれしく感じています。

地域づくりのこれから

白鳥 私は日々の活動の中で、特に「ご縁」を大切にしています。「地域づくりは人と人との関係づくり」をモットーに、これからも顔の見える関係を大切にしていきたいです。

渋谷 今回、アイデアは出しましたが、それを形にできたのは地域の皆さんの協力があったからこそでした。これからもそれぞれの立場を尊重し、楽しみながら一緒に地域づくりに取り組む姿勢が大事だと思っています。



▲岩出山地域づくり委員会
Instagram

このまちを “元気にしたい” を合言葉に

問 まちづくり推進課地域自治・NPO担当 ☎23-5069

【令和7年度ステップアップ事業交付金実施事業】

団体名	事業名
鹿島台まちづくり協議会 安全で快適委員会	標語からはじまる地域づくり(交通安全はじめの一步)
鬼首地域づくり委員会	鬼首伝統文化継承事業「鬼首神楽の保存・継承」

【令和7年度チャレンジ事業交付金実施事業】

団体名	事業名
岩出山まちづくり協議会	住民みんなで作る!魅力発見「年度行事予定表」
三本木まちづくり協議会	三本木まちづくり協議会教育部会 二階堂トクヨ先生 教育・文化・歴史の 顕彰及びPR事業
岩出山地域づくり委員会	イワデヤマンズリー 秋のさんぽ市(仮) PRのための取り組み
田尻まちづくり協議会	加護坊里山散策路エスケープルート整備 事業

※岩出山まちづくり協議会の事業は、令和7年3月23日に開催した審査委員会(次年度当初実施事業対象)で採択されたものです。
※採択事業の詳細は、市ウェブサイトに掲載しています。

「このまちを元気にしたい」という思いが、地域の課題に向き合う力になっていきます。人と人をつなぎ、地域の一体感を生み出したいという声が原動力となり、新しい取り組みを生んでいます。大崎市地域自治組織活性化事業交付金は、地域の課題解決に向けた挑戦を後押しする仕組みです。



▲市ウェブサイト

・地域の一步を後押しする「大崎市地域自治組織活性化事業交付金」・

まちづくり協議会や地域づくり委員会では、交付金を活用し、環境整備や伝統文化の継承などを通じて地域のさまざまな課題の解決に取り組んでいます。

交付金には、組織運営のために交付される「基礎交付金」、地域の課題を自分たちの手で解決しようとする際に活用できる「ステップアップ事業交付金」と「チャレンジ事業交付金」の3つの交付金があります。

①基礎交付金

上限額を一定とし、安定した地域自治組織の運営の下に地域の課題解決に取り組むための交付金です。
上限額 均等割と人口割により設定

②ステップアップ事業交付金

地域の課題解決のために実施する事業に活用できる交付金です。
令和7年度は2件が採択され、これまでに107件の事業が採択されています。
上限額 1事業当たり20万円

③チャレンジ事業交付金

地域の課題解決はもとより、「地域の特性や資源を活かした事業」に活用できる交付金です。
令和7年度は4件が採択され、これまでに51件の事業が採択されています。
上限額 1事業当たり100万円
※岩出山地域づくり委員会も本交付金を活用しています。

②・③は市民と学識者などで構成する「大崎市地域自治組織活性化事業交付金審査委員会」で、審査を行います。審査の結果を受け、市が交付の適否を決定します。